

[成果情報名] ボックス栽培におけるビブナム「スノーボール」の加温普通促成作型

[要約] ビブナム「スノーボール」は自然低温遭遇後、1月上中旬から4月中旬まで順次加温を開始することにより、50～15日程度の到花日数で2月下旬以降から自然開花期直前の4月下旬まで、計画的に収穫することができる。

[キーワード] ビブナム、スノーボール、促成作型、ボックス栽培

[担当] 山形農総研セ・農生産技試・野菜花き研究科

[代表連絡先] 電話0237-84-4125

[区分] 東北農業・野菜花き（花き）

[分類] 技術・参考

[背景・ねらい]

洋種枝物花木のビブナム「スノーボール」は、山形県内平坦部において、自然条件下では5月上旬から中旬にかけて収穫となる。切り枝の需要は早春期から旺盛であるため、出荷期の拡大が期待されている。そこで、加温開始時期と収穫時期の関係を明らかにし、ボックス栽培における加温普通促成作型を確立する。

[成果の内容・特徴]

- 1．ビブナム「スノーボール」は自然低温遭遇後1月上中旬以降、順次加温を開始することにより2月下旬以降、自然開花期の直前まで収穫することができる（図1、表1）。
- 2．到花日数は、加温温度を最低15 または昼温20 /夜温13 で管理すると、1月上中旬の促成開始では約50日、1月下旬～2月中下旬では40日以下、3月上旬～下旬では30日以下、4月では20日以下となる（図1、表1）。
- 3．萌芽所要日数は、12月の促成開始では43～98日と長く、1月の促成開始では15～27日、2月の促成開始では10～14日、3月の促成開始では2～8日となり、促成開始時期が遅くなるほど短くなる（表1）。
- 4．この作型では、3年生樹以上で切り枝長50cm以上の商品性の高い切り枝が3.5～7.5本/樹収穫できる（表2）。

[成果の活用面・留意点]

- 1．ボックス栽培で鉄骨ガラスハウスに入室した試験結果である。
- 2．ボックス栽培樹は収穫後に露地に置床し、灌水チューブ等を敷設のうえ水管理を行なう。球根コンテナ利用では、露地に15cm程度の深さで埋設管理を行なうと灌水労力の大幅軽減につながる。
- 3．3月以降は陽射しが強くなり花房等が萎れやすくなる場合があるので、灌水間隔に留意するとともに遮光等で萎れを防止する。

[具体的データ]

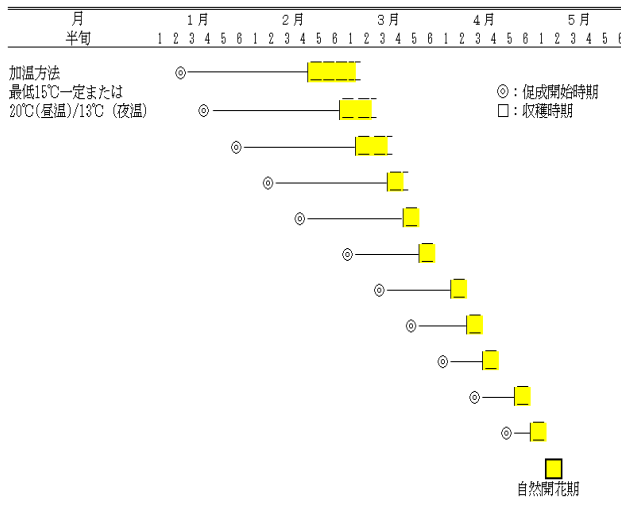


図1 ビブルナム‘スノーボール’の加温普通促成作型

表1 促成開始日と萌芽および収穫日

試験年次	加温温度	促成開始日	平均 ^z 萌芽日 (月日)	萌芽 ^y 所要日数 (日)	平均収穫日 (月日)	到花 ^x 日数 (日)
2004年	最低	12月1日	3.9	98	3.28	117
2年生樹	15	12月15日	2.20	67	3.12	87
		12月28日	2.10	43	3.3	64
2005年	最低	1月12日	2.8	27	3.2	49
2年生樹	15	1月19日	2.11	23	3.4	44
		1月26日	2.14	19	3.5	38
2005年	昼/夜	12月9日	2.21	74	3.15	96
3年生樹	20/13	12月18日	2.11	59	3.6	78
		12月25日	2.9	46	3.2	67
2006年	昼/夜	1月10日	1.30	20	2.26	47
3年生樹	20/13	1月20日	2.9	20	3.6	45
		1月30日	2.14	15	3.10	39
2007年	昼/夜	1月10日	2.5	26	2.27	48
3年生樹	20/13	1月20日	2.10	21	3.5	44
		1月31日	2.17	17	3.8	36
		2月10日	2.24	14	3.16	33
		2月20日	3.2	10	3.23	31
		3月2日	3.10	8	3.31	29
		3月12日	3.14	2	4.6	25
		3月22日	3.22	0	4.13	22
		4月2日	3.22	0	4.19	17
		4月12日	3.22	0	4.28	16
		4月22日	3.22	0	5.5	14
		露地自然条件置床	3.22	-	5.7	-

^z50%到達日、^y促成開始日から平均萌芽日までの日数

^x促成開始日から平均収穫日までの日数

表2 促成開始時期別の切り枝品質と商品枝数

試験年次 供試樹齢	加温温度	促成開始時期	階級別収量				商品枝数 ^z		規格外・障害枝率		
			70cm以上 4輪以上 (本/樹)	70cm以上 2~3輪 (本/樹)	50~69cm 4輪以上 (本/樹)	50~69cm 2~3輪 (本/樹)	(本/樹)	(%/樹)	30~49cm (%/樹)	1輪 (%/樹)	花房発達不良 (%/樹)
2007年 3年生樹	昼温20 夜温13	1月10日	1.5	1.5	0.0	2.5	5.5	100	-	-	-
		1月20日	2.5	1.5	0.0	0.0	4.0	80.0	-	20.0	-
	1月31日	2.0	2.0	0.5	1.0	5.5	91.7	-	-	8.3	
	2月10日	0.5	3.0	1.5	1.0	6.0	85.8	14.2	-	-	
	2月20日	2.5	2.5	1.0	1.0	7.0	100	-	-	-	
	3月2日	2.0	1.0	0.5	1.0	4.5	100	-	-	-	
	3月12日	1.5	1.0	0.0	1.0	3.5	90.0	-	10.0	-	
	3月22日	1.5	1.0	3.0	2.0	7.5	83.3	11.1	5.6	-	
	4月2日	1.0	3.0	0.0	2.5	6.5	100	-	-	-	
	4月12日	1.5	2.5	0.0	0.5	4.5	64.4	28.5	7.1	-	
		4月22日	1.5	0.0	0.0	2.0	3.5	70.0	30.0	-	-
		露地自然条件置床	1.0	0.5	0.5	1.5	3.5	87.5	12.5	-	-

^z切枝長50cm以上かつ花房数2輪以上、^y(商品枝数/着花枝数)×100

【栽培概要】 樹の前歴:2004~2006年供試樹は球根コンテナ・培地量30L・株間20cm2樹植え、2007年供試樹は3年生樹を2006年12月にバケツ形ボックスに根鉢土を四方および深さ約20cmを残すよう掘り上げ移植・培地量15L・1樹植え。施肥量(g/L/年)N0.30、P₂O₅0.30、K₂O0.36。入室前までの管理:2005、2007年は露地、2006年は1月8日から8以下無加温ハウスに置床。収穫は2輪以上の花房が露地季咲き栽培並に展開した段階で実施。

[その他]

研究課題名:洋種枝物花木を中心とした県特産花きの強化技術開発

予算区分:県単

研究期間:2004~2007年度

研究担当者:佐藤武義、高橋佳孝

発表論文等:佐藤ら(2007)東北農業研究、60:165-166